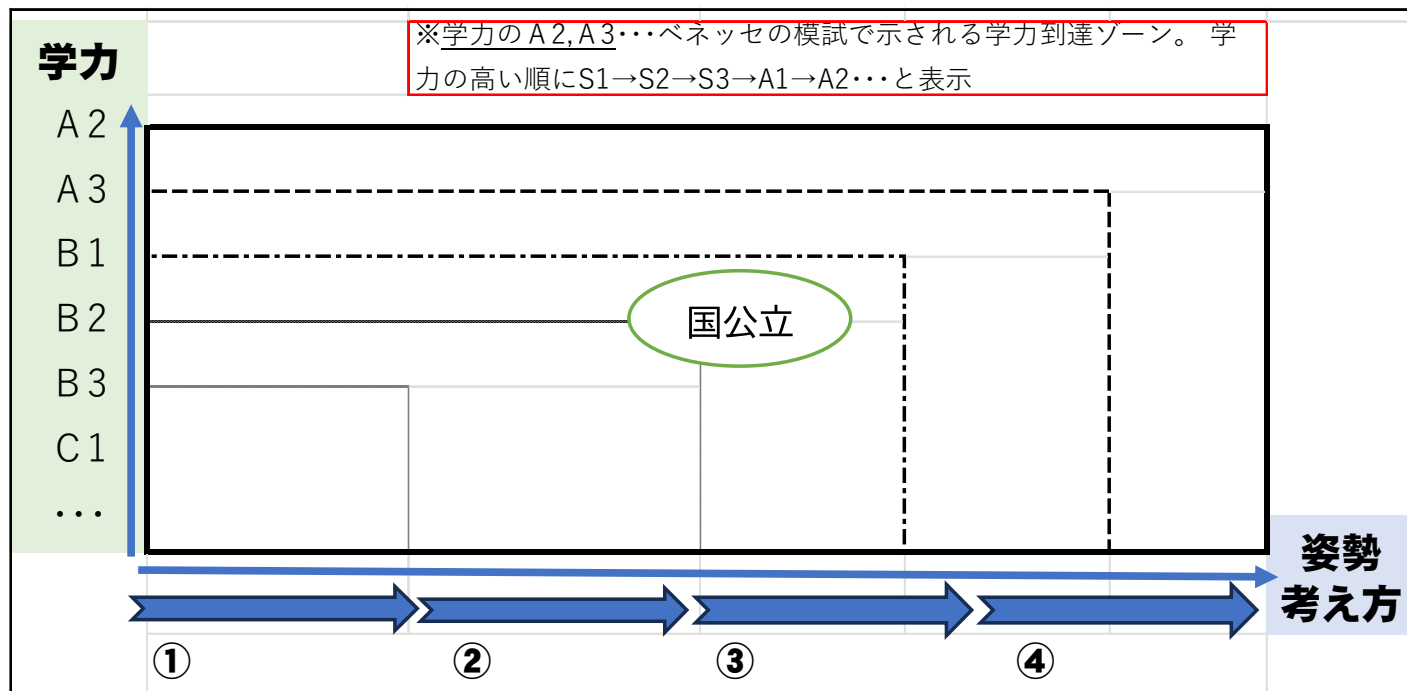


SAH×学習セルフプランニング力の育成

～模試をイメージしながら受験学力を身に付けるためには～

ステップアップの秋を迎え～考え方も一歩前へ～

○まずは以下の図を見てほしい。



①自立
まずは量！学習
習慣の確立！

②「やったか」では
なく「理解したか」
「理解・覚える」のが
目的！

③「前南、自分はこんなも
ん」という限界を決めつけ
ない、+αの量と工夫を
ALレベルならALレベルないの
学習意識が必要！

④前南の壁を越える！
「今から」自分が到達しな
きゃならないレベルに挑
戦することが受かる可能
性を広げる！

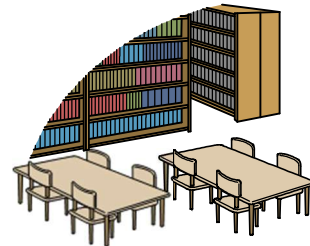
○受験学力＝縦軸[学力]×横軸[姿勢・考え方]

いわゆる能力があっても、学習に対する姿勢や考え方、学習量が伴わないと、膨大な範囲(難関大になればなるほど)の大学受験での勝利は得られない。縦軸の潜在能力・学力があっても、「学習・受験に対する姿勢」の横軸が甘いと到達点は一つ二つ下のところになってしまう(いわゆる“もったいない”結果となる)。だから、持っている能力を100%活かすためには「学習・受験に対する姿勢や考え方」が鍵となる。

○「横軸」の壁を突破せよ！

「姿勢・考え方」も縦軸の学力ランクと同様に考える。それが上図だ。自分が志望する大学、または自分の

学力にふさわしい大学に受かるためには、横軸の「姿勢・考え方」も縦軸の「学力」同様のランクにしないと大学受験レベルは到達しない。だから、「横軸」を右にどれだけ伸ばせるか、「横軸」の壁を一つ一つ突破する努力や工夫をすることが**前南生の“一番の課題”**と心得よ。



①ができていない人

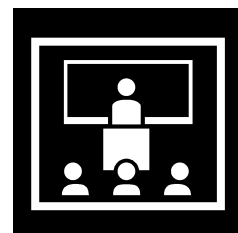
できるようにするための工夫と覚悟を。具体的には「親」を使う。「塾」「学校」「図書館」の自習室を使う。親に宣言したり、約束(スマホを預けるなど)をしてもらって、まず机に向かうスタミナをつける努力を。そして、「学習の記録」を必ず記入し、可視化して、常に自分を客観的に管理できるようにすること。習慣化できたら、あなたの勝ちだ。**各学年で毎朝「学習時間」を入力させている意味はここにある。**

②ができるかどうかスタンダード

このレベルに達すると、群大など地方国公立がゲットできる

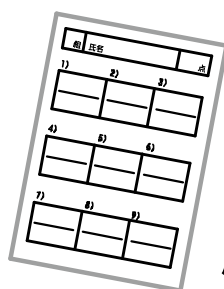
いわゆる「量からの質」の段階だ。せっかくやるのだから、ただ課題を終わらせるのではなく、**ただ時間をこなしただけではなく、「どれだけ覚えたか・理解したか」を常に意識して1日を振り返ること。**

そして、学習内容も、自分の力をつけていく内容をしっかりチョイスしたい。極端な例だが、今「九九」を復習しても、“できる”が“受験学力のレベルには到達しない”。つまり、易しすぎる課題をやっても、自己満足で終わってしまう。逆に、難しすぎる課題をやっても身に付かないのであれば、積み上げた学力は0(ゼロ)だ。これも「難しい問題やっている自分」で満足しているだけになる。



③④がいわゆる難関大学、「A ランク」の大学征服のカギ！

マークシートで処理能力が問われる「共通テスト」と応用問題で記述式の「国公立2次試験」。細かい知識を問う「私大(個別)入試」。前南では上位にいて、地方国公立より難易度の高い大学、難関私大を狙う生徒は考



えてほしい。**相手は前南生ではなく、他校の学力の高い生徒との戦いであるということ。**

そうすると、「学力」も「姿勢・考え方」も、前南のスタンダードを超えたレベルでないと戦えないということである。「学力」で言えば、今の自分の力で解ける問題で満足し、難しい応用問題にチャレンジしないのであれば、勝負にはならないということ。

1.2 年生は模試を目標に動いてみよう！3 年生は本番にむけて勢いを！

1.2 年生は中間考査が終わりました。10 月末にある進研模試に向けてじっくり取り組める絶好の時期です。この図を見て、「学力」(4月のスタサポ、7 月の模試を見ればわかる)「姿勢・考え方」において、自分は**今の位置にいるのかしっかり認識し、計画を立ててみよう**。3 年生は夏休みの頑張りを固めていく、さらに上乗せしていくために、一日、一時間をどう過ごしたら効率が良いかを考えながら過ごすこと。(続く)